



若者の定住と働き方を考える 地域円卓会議 in 宜野湾市

大学生の住むまち宜野湾市、卒業後も住めるまちを目指し、
地域で活動できる場を増やすには

実施報告書

日 時： 2017年8月2日（水）18:30-21:00
場 所： 宜野湾市社会福祉センター（2階ホール）（沖縄県宜野湾市赤道2-7-1）
主 催： 国立大学法人 琉球大学 地域連携推進機構、
公立大学法人 名桜大学 地域連携機構、宜野湾市
協 力： 公益財団法人みらいファンド沖縄、NPO法人まちなか研究所わくわく

報告書作成
NPO法人まちなか研究所わくわく
公益財団法人みらいファンド沖縄

ACTIVITY REPORT

【報告】若者の定住と働き方を考える地域円卓会議 in 宜野湾市



- 日 時：2017年8月2日（水）18:30-21:00
- 場 所：宜野湾市社会福祉センター（2階ホール）
- 着席者数：9名（論点提供者、司会、記録者含む）
- 主 催：国立大学法人 琉球大学 地域連携推進機構
公立大学法人 名桜大学 地域連携機構、
宜野湾市
- 来場者数：34名（企業・行政・NPO・教員・学生）
- 協 力：公益財団法人みらいファンド沖縄
NPO法人まちなか研究所わくわく
- お問合せ：国立大学法人 琉球大学 総合企画戦略部
地域連携推進

論点提供 国吉 孝博 氏（宜野湾市役所 企画部 部長）

大学生の住むまち宜野湾市、卒業後も住めるまちを目指し、地域で活動できる場を増やすには

宜野湾市は、市内及び近隣に大学等、各種高等教育機関が立地し、そこで学ぶために市内外及び県外からも多くの学生が集まる街です。年齢階級別の人口移動の推移を見ても、大学等入学時では、男女とも転入超過となり、一定の賑わいは見られているものの、大学等卒業後は、一転して転出超過となる傾向があり、卒業生が地域定着できていないという実情もあります。今回の地域円卓会議では、大学との協働により、大学生が宜野湾市に愛着を持つことができるまちになるために、大学生という資源と地域との関わり方について、多様な知見を有するメンバーの皆様で考察し、卒業後も宜野湾市に住みたくなるまちづくりについて議論します。

センターメンバー



国吉 孝博
宜野湾市役所
企画部 部長



宮道 喜一
NPO 法人まちな
か研究所わくわ
く事務局長



国仲 瞬
株式会社がちゅ
ん 代表取締役
社長兼 CEO



伊波 稔
嘉数区自治会
会長



國吉 真哉
琉球大学
教育学部教授



白井 隆秀
琉球インタラク
ティブ株式会社
代表取締役社長



明 真南斗
琉球新報社
中部支社 記者

➤ 円卓会議に参加いただいた皆さんから

事実の提供

- 日本の人口について
 - ✓ 国の総人口は1億2,693万3千人（平成28年10月1日現在）で、6年連続で減少している
 - ✓ 65歳以上の高齢者人口3,459万1千人（高齢化率27.3%）
 - ✓ 合計特殊出生率1.44%、年間出生数97万1千人
- 宜野湾市の人口について
 - ✓ 宜野湾市の人口は、年間860名ずつ増加しており、現在98,000人が暮らす
 - ✓ 合計特殊出生率1.85%で、全国平均よりも高い
 - ✓ 年少人口が市の人口の17.9%
 - ✓ 生産年齢人口が市の人口の65.8%
 - ✓ 高齢化率16.9%（県全体17.43%）
 - ✓ 10代後半～20代前半：大学等入学時の男性が転入超過する傾向
 - ✓ 20代前半～20代後半：大学卒業後の男性が大幅に転出傾向
 - ✓ 将来人口は、H37年をピークに減少すると見られている（社人研推計より）
- 宜野湾市在住の18歳～24歳について
 - ✓ 18～24歳の人口推計8,066人
その内、通学者数：3,077人（38%）、就業者数：3,988人（49%）、その他：1,001人（12%）
- 琉球大学生：約1,500人、沖縄国際大学・その他専門学校：約1,500人 合計約3,000人
- 平成36年度末、西普天間基地跡地に琉球大学医学部及び同附属病院が移転して、学生1,170名を含む、約4,000名が敷地内で活動することとなる
- 宜野湾市の人口に対する学生の割合は3.14%である。これは、各都道府県の人口に対する学生の割合の全国平均2.26%（学校基本調査）よりも高い
各都道府県の人口に対する学生の人口比率ベスト3
1位：京都6.17%、2位：東京5.53%、3位：滋賀2.64%
- 長田、我如古、真栄原は特に学生が多く住んでいる
- 株式会社がちゆんは地域での活動を継続するために、修学旅行生を上大謝名地区に連れていくことを地域住民に同意してもらっている。その代わりに、大学生が毎週金曜日に公民館で学習支援を行うようにしている
- 普天間3区と我如古区の自治会では子ども食堂や学習支援が行われている
- 嘉数区自治会ではお年寄りのデイサービスや近くの保育園と世代間交流が行われているが、学習支援等の学生との取り組みは無い
- 嘉数区では、若者の地域行事への参加が少ない
- 嘉数区の平和学習ガイドは3名いるが、全員が80代で後継者育成が課題となっている
- 琉球大学教育学部の学生が活動する「ものづくり楽校」は、数年前から地域を限定し、長田区の地域課題を学生と一緒に解決していく形で取り組んでいる。今年度は通年ではなく半期であったが、「普天間やまがっこう」で「ものづくり楽校」は実施された。学生と地域の繋ぎ手は、琉球大学の教授が担った
- 高等学校の家庭科では、住生活とまちづくりについて学ぶようになっており、地域課題を解決するために家庭科のスキルや知識を活かすプログラムがある
- 宜野湾市では、繋ぎ手となる、地域コーディネーター養成の講座を行っている

事例の提供

- 金沢市、滋賀県、京都府などは「学生がいるまち」としてアピールしている
- 長田区の地域づくり会議では、関わりたい人が自由に関わる場を設けている。活動を通して、住むキッカケに繋がる場合もある
- 学生が多い長田区は、エイサー、スポーツで地域と学生の関わりがある
- 高等学校には地域課題を解決するために家庭科のスキル・知識を生かすプログラムがある

視点の提供

- 若者が住み続けられる施策をとることで、基地返還後のまちづくりを担ってもらえる
- 宜野湾市は『学生のまち』として価値を高められる
- 学生が大学で学んでいるスキルを地域に活かし、磨けることは学生にとってメリットになるのでは
- 採用したい人材像として企業が重視するのは、これからどれだけ伸びる人材かということ。そのために、学生時代にどんな考えで何をやってきたか（地域、海外、学校内）、どれだけ自分を高めてきたかを重視すると考えられる
- 普天間高校の家庭科クラブが地域で活動するようになると、家庭科教育の延長として継続していくことができるのではない
- 地域は地域課題の解決、協働の推進のための担い手が必要となっている
- 外の視点、アイデア、課題確認を自治会内だけで行うのは難しいが、若者が関わることで、外と手を組む動きに繋がっていきやすい
- 学生と地域をマッチングし、マネジメントできる人が必要なのは
- 学生の暮らし・通学・消費活動が宜野湾市の中にあり、さまざまな地域づくりの機会があるのでは？
- 大学内の学生活動では学生は大人との接点は教授のみだが、地域と関わることで大人と出会うことができる
- 地域住民だけで実施する企画よりも、学生が関わったほうが記事として取り上げやすい。取り組みが記事に取り上げられることで、学生のモチベーションに繋がる
- 大学の共通教育の講義等で地域と関わる受け皿をつくれば、魅力的な取り組みができるようになる
- 地域と学生が関わるモデルケースが継続していけばいいと思う。モデルをもとに、他自治会がそれぞれ取り組んでいく中で、支援の必要性がある場合は行政も関わられる
- 学生が卒業後に就職する会社が宜野湾市に沢山あると、そのまま若者が住み続けられるかもしれない
- 若者が卒業後、就職、結婚、子育てと繋がるようなビジョンが宜野湾市にできるとよいのでは
- 企業側が必要な人材を評価軸（モノサシ）として伝えることで、学生が地域活動を始める可能性もある

評価の提供

- 学生が地域課題を探るのには時間がかかり、地域課題を解決するまでに至らないこともある。また、講義終了後も地域活動を継続することの難しさや学部ごとの縛りもある。さらに、講義がクォーター制導入になるため、より地域との関わりが短いスパンになるおそれがある
- 学生の研究や専門知識をひとつの資源と捉え、地域の課題解決に結びつける存在（組織、人）がいることが学生とのマッチングが成功しているケースに共通しているだろう
- 高等学校の家庭科教育での取り組みは、『自分自身の課題の改善と地域の課題の改善をすること』と教育指導要領では定められているが、多くの学校は地域課題の改善には取り組んでいない現状がある
- 宜野湾市は、起業誘致の視点ではバランスのいい街である（若者がいる、海がある）
- 地域は若者の声を期待しているが、継続になると地域からの過大な期待がプレッシャーとなることもある
- 地域で活動できる場をつくる場合、枠組みにとらわれない自治組織が大事
- 青年会、老人会、子ども会、どの自治組織にも入ることができない年代に対して、既存の自治組織にこだわらない、新しい関わり方ができる組織があると、地域に関わるきっかけができるのではない
- 県外企業誘致の課題は、物件（オフィス 50 名～1000 名）がないことだが、適応する物件をつくれば次に進む流れができる
- 地域に参加することではなく、地域との関わりを継続していくことが学生にとって課題となっているのではない

➤ 今後のアプローチの方向性（提案）

- 大学生の資源を活用するために、地域と大学が連携し、地域課題と学生をつなぐべき
- 大学生は 4 年間の時限付き、地域活動への参画は継続を見越したコーディネートが求められる
- 大学生の参画する地域活動に対し、地域内で評価軸を共有確認し、ウィンウィンな関係を

■参加者によるサブセッション

「大学生の住むまち宜野湾市、卒業後も住めるまちを目指し、

地域で活動できる場を増やすには」(原文のまま)

- ① ・交通渋滞…課題
・海外の例 学生、企業誘致、産業→研修のアウトソーシングができる！
・学生のメリット！
インターンシップ（思い…地域の人とのふれあい）就職するきっかけ
・世界に進しゅつ！IT、観光
・シェアオフィス…箱いらないのでは
・ソフト面の強化
子育てしやすい…学生定住するかも！
- ② ・人と人とのつながり
・地域のみりよくつくり
- ③ ・当たり前のこと
・活躍者している人に焦点があたっていない
・ブランディング不足
・首里にあった頃、学校のまち
（宜野湾には雰囲気がない）
・学校と地域の接点（ビジネス要素必要）
- ④ ・学校と地域の WinWin の関係をどうつくるか？
・出会いの場を！
ex ・高齢者宅へのホームステイ
・解決してほしい地域の課題を授業で扱う
（小さな粒の←ここ重要！）
- ⑤ 学生目線（ニーズをとらえた）出会い交流の場の設計
- ⑥ ・魅力のある企業を集める、育てる
・福祉、住みやすさの充実（特に子育て世代）
大学教育の充実
- ⑦ ・強制的に関わらせるより自主的に関わるようにすべき
・外から呼び込んで住んでもらうより地域の子どもたちが生涯関わる地域づくりの方が大切では？
・仕事をしっかり作り生活基盤を整えないと住めない
↑1000人規模の企業誘致必要！
*ホームステイ
*研究として入ってもらう
*青年会
- ⑧ ・公共交通を充実させる
・働き口を増やす
・家賃を安くする
- ⑨ 住み続けるメリットはどこにあるのか？
自分の専門分野を活かせる土俵があるか
宜野湾市をまず知ってもらう必要あり
→どんな仕事があるか知る
⇒宜野湾市の魅力を発信できる人がいること
大事では！？

若者の定住と働き方を考える地域円卓会議 in 宜野湾市

参加者アンケート集計

◆概要

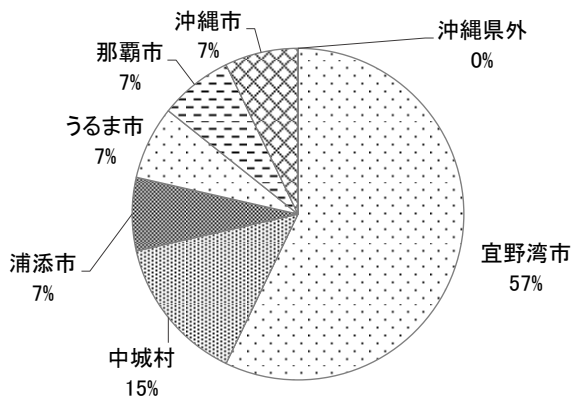
- ・ 日時：2017年8月2日(水) 18:30-21:00
- ・ 場所：宜野湾市社会福祉センター（2階ホール）
- ・ 着席者：9名（論点提供者、司会、記録者含む）
- ・ 参加者：34名（アンケート回収14名、回収率41%）

4. 満足度

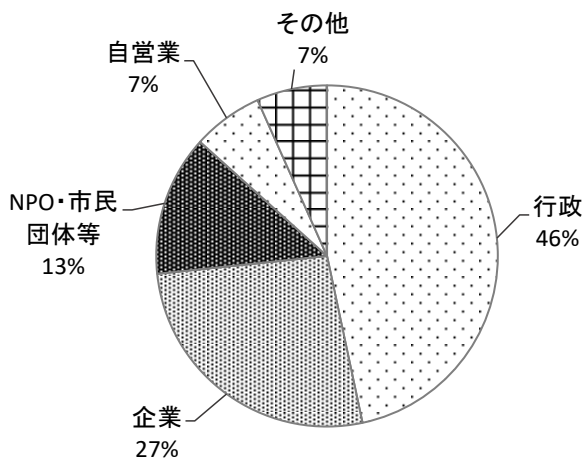
平均：4.3（5点中）

5. 満足	4. 概ね満足	3. ふつう	2. あまり満足していない	1. 不満足
5名	9名	0名	0名	0名

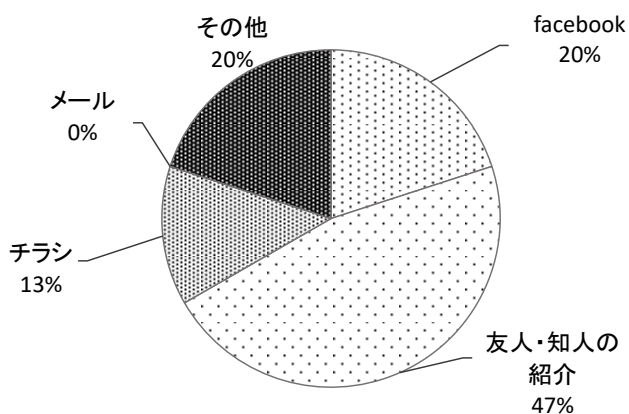
1. どちらから？



2. 所属



3. 円卓会議はどのように知ったか



5. 満足度の理由

(5. 満足)

- ・ 一市民として、今日のテーマに携わり、考える人は初めてでした。生まれ育ち、生活している場を、「地域特性」の一環であるものの、地元愛として考えることは、人生観に関わってくるものもある。単純に、今住んでいる自治会でどう行動するかをイメージしています
- ・ 大学生という、すでに在住する住民について、大切な資源として、多角的な視点から考えることができた。普段、接点のない属性の方が、共通の課題について意見を出し合うことで、今後の展開が期待がもてました
- ・ 進行、サブセッションが良かった。自分ごととして考えることができます！ふり返り、グラフィックが良かった！
- ・ 地域の方々と触れあうことができたため

(4. 概ね満足)

- ・ 様々な視点からの意見を聞くことができた
- ・ 行政、企業、大学、地域それぞれの立場で取り組むべきこと、アイデアを知ることができ、ひとつの企業として大学生と地域をつなぐ方法を考えることができた
- ・ 個人では考える機会のないテーマについて知る事が出来るキッカケになりました。ありがとうございます
- ・ 様々な方の意見をきく、意見交換できて、とても有意義でした
- ・ 様々なファクターの方から多様な意見が聞けたこと地域への取組の一例をみれた！

- ・ 円卓会議というツールを使っての話し合いの場は、様々な（多様性を大切にした）意見が安心して自由に言える、本当に素敵な時間でした！
- ・ 学生が地域に入っていき、愛着を高める事で定住を目指すという、ゴールへの道が見えた点が良かった
- ・ 企画、運営お疲れさまでした。たくさんの参加者でよかったと思います。（市内外から来ているし）
- ・ いろんな意見が聴けたこと、話し合えたことはよかったです。着席者に女性がひとりはいるべきですね。性別、年代の構成も考慮した方がいい
- ・ 行政の中で職員がどう具体的に動けるのか、が、今後の要だと思います
- ・ 地域には課題がたくさんあると言いますが、きちんと見ようとしなければ見えないものも多いと思います。職場内での話し合いの場を！
- ・ 学生のニーズに対応しないといけない点
- ・ 「継続」
- ・ 難しいので、気持ちある人が、力を合わせて取り組むことがらだと思います
- ・ 宜野湾市が学生が多い町であるという認識はあまりなかった。学生を活かせる仕組みづくりができればとおもいました
- ・ 若者だけでなく、子育て世代、シニア世代などのことも考えていかななくてはならないという視点
- ・ 町の強みとなる、学生、大学を活かす流れが、未来につながり活になると思いました！

6. 印象に残ったこと

- ・ 基地返還後のまちづくり→生活の糧を得られる就職先がある→そのまま、結婚、子育てに移行できる
- ・ 大学生が地域貢献、定着することのメリット、評価軸をつくること
- ・ ①出身が嘉数なので、伊波さんと国仲さんのガイドの話
- ・ ②視点が多くあったので、円卓会議という会議体の運営手法はバランスが取れているなと思いました
- ・ ③ファシリテーターの平良さんが話者の内容をわかりやすくそしゃくしていて感心しました
- ・ 長田区の地域づくり会議と、年配の方のところに学生が住むこと
- ・ ”卒業後も居続けるメリット”就職先で”生活の糧”、”継続性”、”ライフステージを線でつなげる”という、キーワードが印象に残りました
- ・ 地域とのコーディネイターをする人が必要！との意見がホントにそうだ！と、思いました
- ・ 進行がとてもわかりやすいです

(写真) 会場の様子



若者の定住と働きを考える

2017年8月2日(水) 18:30~21:00

地域円卓会議

51回目 宜野湾市

会場: 宜野湾市社会福祉センター
 主催: 琉球大学 名桜大学 宜野湾市

大学生の住むまち宜野湾市
 卒業後も住めばまちを目指し、地域で活動できる場を増やす

トピック: COC+ (COC+ 2nd) 若者定住 雇用創出 9月中に実施 共働き 深めたい!

出席者: 市長 平松 明、副市長 白井、NPO 伊波、国吉、名桜大学、琉球大学、宜野湾市、NPO 伊波、国吉、名桜大学、琉球大学

論点提供

2025年人口 (平成37) 1035000人 (減少)

20代 4割1学生 18~24才 307人 (38%)

10代後半~20代前半 転入 10代後半~20代前半 卒業後転入

人口減少 高齢化 27.3% 加速 出生率 1.44人 人口 98000人 4315人増加 1.85人 年人口 1.99% 高齢化 65.8%

若者が多い 転入せず定着 担い手(地域) 人口減少防止

1.4668 約15000人 約4000人

ポータルサイト

NPO まちづくり研究所 国吉

地域連携 まちづくり

宜野湾市 3,077名 3.14%

全国的に見ても人口割合は多い

参加者 参加者 参加者

地域の拠点で 地域での活動 地域での活動

学生との交流 地域での活動

地域での活動 地域での活動

地域での活動 地域での活動

地域×家庭教育

嘉数区 自治会 伊波

地域×家庭教育

学校での活動 学校での活動

地域での活動 地域での活動

地域での活動 地域での活動

地域での活動 地域での活動

地域での活動 地域での活動

セッション

琉球新聞 地域×学生 記事と上げ 少ないかも... 学生が多いから

自分が学生の時 どのような風に見えるか

セッション

地域連携×企業 ビジネス+?

宜野湾 卒業後 働き先がある

宜野湾 働き先がある

働き先がある 働き先がある

働き先がある 働き先がある

働き先がある 働き先がある

セッション

卒業後 居続けるには?

環境を準備していくには?

地域で活動できる場

長田区 自治会 働き先がある

働き先がある 働き先がある

働き先がある 働き先がある

働き先がある 働き先がある

働き先がある 働き先がある

高層が北に
あるのはアベノ橋
各自に任す
直野津は土地が良い

男子学生が数多くいるのは
・地域への関わり(学生)
・国やアベノ橋の利便性
・学生がどうして卒業後の就職
をする

ヒント・出た意見 etc

- ・交通の利便性... 徒歩
- ・海外の側、学生、企業訪問、産業
- ・研究のアピールが大事!
- ・学生のメリット!
・インターンシップ、就業支援等
(思... 10社以上の企業あり)
- ・世界に通用! IT、観光
- ・シェアオフィス... 毎11時から18時
- ・ソフト面を強化
- ・学生を支援... 学生生活支援!

・人との
つながり
・地域のみが
つくり

・当たり前のこと

- ・活躍している人
・焦点をあてていなり
- ・プランニング不足
- ・首里にあった頃、学校の跡
(直野津には空母が来た)
- ・学校と地域の接点
(ビジネスセンター)

学生と地域のWinWinの
関係はどうつくりたい?

- ・出会いの場を!
ex. 高齢者層宅へのホームステイ
- ・地域の課題と授業で
解決してほしい人 扱うべき重要!

学生目線 (ニーズと対応)
学生: 交流の場の設計

- ・魅力のある企業を集める育成
- ・福祉、住みやすさの実現 (特に福祉)
- ・大学教育の充実

- ・引き制的に閉りおさるより
自主的に開くようにするべき
- ・外から呼んでこよう! 住んでこよう!
地域の子供たちが生活圏内は地
域づくりの力が大切では?
- ・仕事をしつづける生活基盤を
整えるには任める!!
↑ 1000x 規模の企業誘致の要!

* 大学の
* 研究とは
* 学生の
* 青年会

- ・公共交通を充実させる
- ・住み口を増やす
- ・家賃を安くする

住み口のメリットは
どこにあるか?

専門分野で
活躍する人が出る
直野津市の魅力と
関係する人がいかに
大事!!

直野津市を
知るべき企業家
と関係する人が出る